

男女共同参画室だより

(令和4年度 第4号) 令和4年12月発行

編集・発行:つくば市男女共同参画室

つくばの輝くひと

つくば市立上広岡保育所 / 保育士 棚谷 佳典さん



男性保育士第一号

「棚谷さんがつくば市立保育所・第一号の男性保育士なんですね！」

「僕が採用された時に同期で男性が3人いましたから、3人とも第一号ですが(笑)」

「保育士になられて何年ですか。」
「02年採用でしたので、勤続20年です。」

「当時は、男性の保育士さんって、少なかったですよね。どうして「保育士になろう!」と思ったんですか？」

「幼い頃から、子どもが好きでしたので、親戚の子の面倒を見たりしてました。自然と、子どもと関わる「保育士」という仕事に、興味を持つようになりましたね。」

「でも当時は、男性の保育士のことを、「保父さん」と呼んでいた時代でしたので、本当に男性保育士は少なかったです。」

「だから、僕自身、「保育士になる」と言うイメージは全く沸かなかったし、実は友人にも、

「恥ずかしくて言えなかったんですよ。」

「高校に入学し進路を考える時期に、両親に思いついて相談したら、「男性保育士って、今の時代、とてもいいじゃない」と大賛成してくれたんです。嬉しかったですね。」

「賛成してくれただけでなく、当時、高校の先生でさえ、あまり把握していなかった学校の情報について、両親が調べてくれたんです。学校見学なども積極的に連れて行ってくれて、両親が堂々と質問したり、説明してくれました。」

「そのうちに、僕自身も恥ずかしさはなくなり、保育士を目指すことに抵抗がなくなりましたね。」

「ご両親が、「好きなこと」「やりたいこと」を支えてくれたんですね。」

「両親が、ここまでサポートしてくれなかったら、僕は今、保育士として働いてなかったと思います。」

「進学後から資格取得までは、どうでしたか。」

「専門学校に進学すると、周りに男性保育士を志望する仲間も、自然とできました。」

「保育士の資格取得の時に、ピアノの実技試験があつて、それには苦労しました。もしやりたいうことが見つかったら、必要なスキルを調べて、早めに対応しておくことをおススメします(笑)」



▲ 上広岡保育所の仲間と共に

「就職したばかりの当時、女性ばかりの中で働くことに不安はありませんでしたか。」

「女性の先生方から特別視されることはありませんでしたので、すんなりとお話していくことができました。」

「ただ、最初に、更衣室などは、時間を決めて交代で使おうなどのルールは話し合いで決めました。」

「幸い、同僚だけでなく、保護者の方も、「保育士」として受け入れてくれました。」

「何より、子どもたちが、男の先生、女の先生と区別しないんですよ。子どもから「男の先生」と言われたことは、一度もありません。「棚谷先生」として接してくれるんです。」

「大人より、子どもの方が、ジェンダーによる性別役割分担意識がないんですね。」

「研修等で、他所属の男性保育士で集まることのあるのですが、悩みとして「同僚から『男性保育士は、〇〇が得意』などと思いきまれてしまうことがある」

などの声を聞くことがあります。実際、力仕事など、女性より男性の方ができるということはありますが、性別ではなく、その人ごとに得意不得意があります。その人自身を、職場では見てもらいたいですよね。」

「つくば市でも、就職当初は、「男の先生は活発な年長クラス担当」「女の先生は乳幼児クラス担当」という傾向がありました。が、今は、全くありません。一人の保育士として特性をみて、活かしていただいていると感じています。」

「まさに、棚谷さんたちが切り開いていったんですね。」
「最後に、保育士になりたい方へのメッセージとして、保育士のやりがいについてお話しください。」

「クラスを受けもった子が卒園するとき、いつも泣いてしましますね。自分の子の卒園式より感動します(笑)」

「僕が初めて、受け持った子たちは、もう成人しているんですよ。大きくなった子が訪ねて来てくれる。そんな時も、改めて「保育士になって良かった」と感じます。実は、僕が関わった子で、男性保育士になって、つくば市立保育所に勤めている子がいます。」「「違う」と言われるんですが、「僕に憧れてなったんだろ?」って、いつもからかうんです(笑)」
「関わった子どもが、今、同僚として、仲間として、一緒に働いている。こんなに嬉しいことはありませんね。」

内閣府の男女共同参画白書から見た、日本人の働き方

就業は、生活の経済的な基盤であり、また自己実現につながるものでもあります。働きたい人が仕事と子育て・介護の二者択一を迫られることなく、働き続け、その能力を十分に発揮することができるような社会の構築は、日本の大きな課題となっています。

そのためには、ライフイベントに対応した柔軟な働き方や、パートナーである男性の家事・子育て・介護等への参画等の実現が不可欠です。

内閣府の男女共同参画白書から見た、現在の日本人を取り巻く現状を知り、ご自身の状況を振り返ってみませんか？

共働き？専業主婦？どちらが多い？！

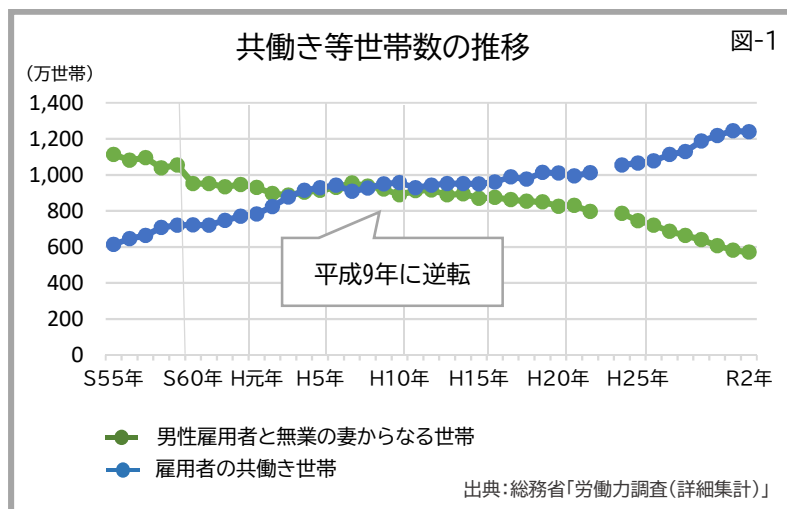
共働き世帯数

共働き世帯数は年々増加しています。

平成9年に、専業主婦世帯を上回った後、平成24年頃から、差がさらに拡大しています。
(図-1)

総務省「労働力調査」によると、共働き世帯数の増加の大部分は、妻がパートという世帯数の増加によるものです。

妻がフルタイムの共働き世帯数のピークは、平成5年で、その後は、ほぼ横ばいです。



夫は外で働き、妻は家庭を守る？！～変わっていく意識～

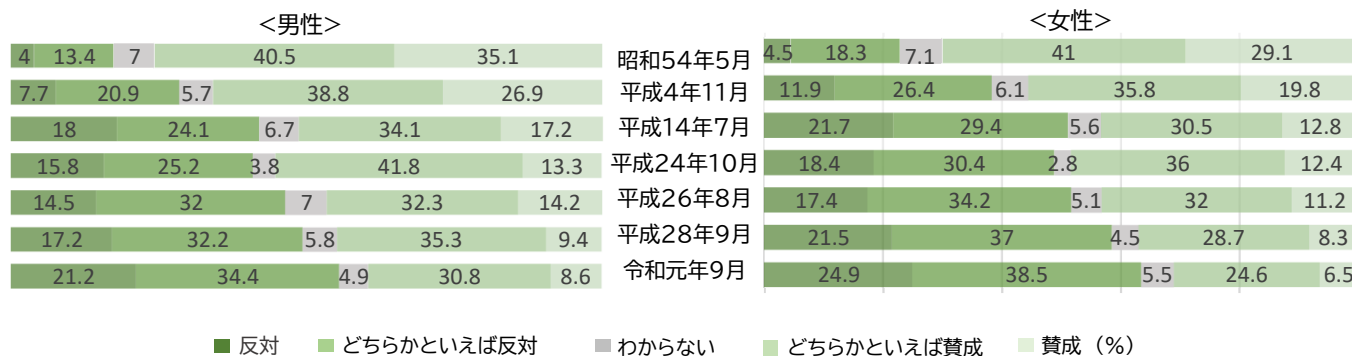
共働き世帯数が増えるに伴い、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識に反対する割合は増えていき、現在6割にのぼります(図-2)。

意識は変わってきていますが、総務省「社会生活基本調査」によると、6歳未満の子を持つ夫の「家事・育児・介護時間」は、平成18年の60分から、平成28年には83分と大きな変化は見られません。共働き世帯においてもその時間は、妻の2割程度にしかありません。

実際には、夫が「労働で収入を得る」、妻が「家庭を守る」という役割分担をしている夫婦がほとんどとなっているのが現状のようです。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化(男女別)

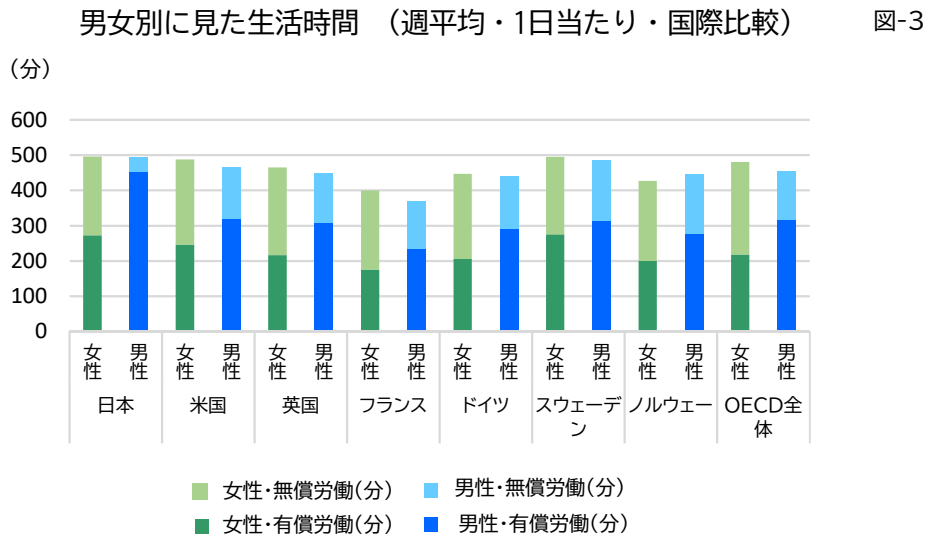
図-2



出典：総理府「婦人に関する世論調査」「男女平等に関する世論調査」
内閣府「男女共同参画に関する世論調査」「女性の活躍推進に関する世論調査」

生活時間の国際比較から見えること

日本人男性の有償労働時間は、他国より長い

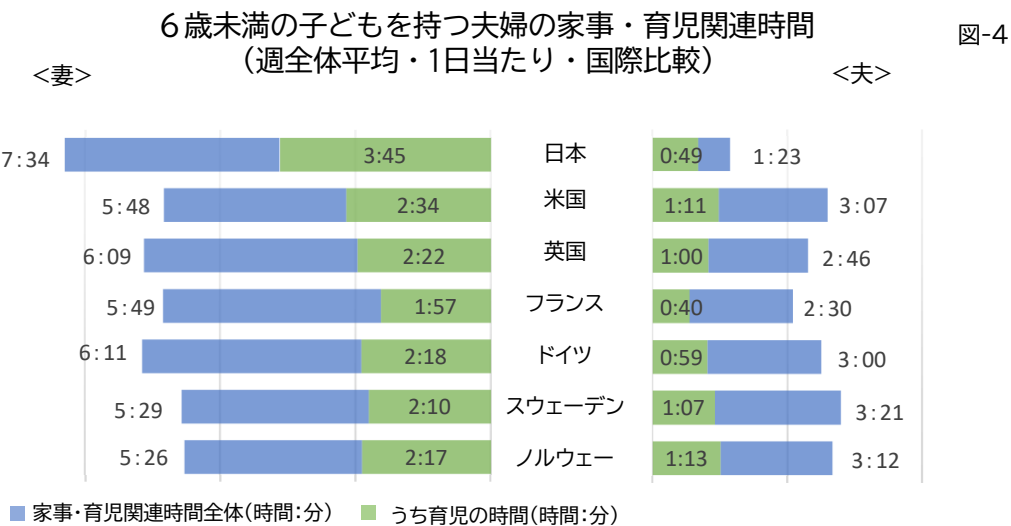


日本人の男性は、他の国と比較しても、有償労働時間が長いことがわかります(図-3)。

総務省の「労働力調査(基本集計)」によると、30～40代の子育て期にある男性の「週間就業時間60時間以上の割合」が特に高い傾向にあるようです。

夫は仕事と生活のバランスを見直すのではなく、仕事が増やせない中で、可能な範囲で「家事・育児・介護時間」を増やそうとしている状況にあると考えられます。

日本人女性は、育児の時間は長いと言われる



6歳未満の子を持つ夫婦の家事・育児関連時間は、諸外国と比較しても同程度ですが、夫の家事・育児時間が短い一方で、妻の育児の時間は長くなっています。(図-4)

出典：総務省「社会生活基本調査(H28年)」

長時間労働の見直しがカギ

女性が十分活躍できない原因には、固定的な性別役割分担意識や性差に対する偏見等があるだけでなく、実際は男性の長時間労働に大きな問題があることがわかつています。

長時間労働削減等による働き方改革を推進し、男女がともに働き方、暮らし方を見直していく必要があり、「社会の問題」としてとらえていく必要があります。

つくば市女性のための相談室

つくば市では、女性の人権を守ることを目的に、2002年「女性のための相談室」を設置し、夫婦・親子の問題、人間関係、DV、生き方など、女性を取り巻く様々な悩みの相談に対応しています。

新型コロナウイルス感染症による生活不安やストレスから、DV等の増加・深刻化が懸念されています。家庭内での暴言や暴力で悩んでいる時には、ひとりで抱え込まず、まずは御相談ください。



予約専用電話番号：029-854-8515

【予約受付】

月曜日から金曜日まで 8:30～17:15（祝日・年末年始除く）

- 秘密厳守・相談料無料（※電話での相談の場合、通話料は相談者負担です。）
- 相談時間は、**50分間**です。ただし法律相談は、**30分間**となります。
- 電話相談・一般相談を受けた方は、カウンセラーによる心と生き方相談、弁護士による法律相談を御利用できます。（※法律相談は、**年度内1回**のみ）

電話相談	第1・2・3・4 月曜日	予約なし	【相談専用電話番号】 029-856-5630 10:00～16:00
一般相談 （面接・電話どちらも可）	第1・2・3・4 火・金曜日	予約制	①10:00～②11:00～③13:00～ ④14:00～⑤15:00～
心と生き方相談 （面接のみ）	第1・2・3・4 水曜日	予約制	①10:00～②11:00～③13:00～ ④14:00～⑤15:00～
法律相談 （面接のみ）	第2・4 木曜日	予約制	①13:30～②14:00～③14:30～ ④15:00～